

目当てを持って意欲的に学習する児童の育成

——特に、説明的文章の読みとり方を身につけさせるための指導過程の工夫——

足利市立大月小学校

1 研究主題設定の理由

国語科指導法に関する研究を推進するにあたり、下記(1)～(3)について検討を加えた。

1 児童の実態

次のような児童が目立つ

- ア 説明的文章に対する興味・関心が薄く、学習への意欲がやや欠ける。
- イ ものごとを論理的に考えることが苦手である。
- ウ 説明的文章の読みとり方（学習の仕方）が身についていない。
- エ 文章を読みとるための基礎的・基本的な力がやや欠ける。

2 教師の実態

過去の指導法を反省した結果

- ア 教材研究がやや不十分であった。
- イ 1単元、あるいは1単位時間の指導過程に工夫の余地がある。
- ウ 児童に対する「学習の仕方」の指導が不十分だった。
- エ 学習への意欲づけに対し、工夫の余地がある。

3 これから目指すもの

- ア 自ら学ぶ意欲を喚起する。
- イ 主体的な学習の仕方を習得させる。
- ウ 論理的な思考力・想像力・直観力・判断力・表現力を育成する。
- エ 問題解決的な学習や体験的な学習を重視する。

上記上(1)～(3)について検討した結果に基づき、本主題を設定した。

2 研究の目的

本研究は、先に述べた実態等に基づき、次の点を解決しようとするものである。

- 1) 教材研究の方法について、本校としての方法を案出する。
- 2) 説明的文章の読みとり方（学習の仕方）を習得させるための基本的な指導過程を設定する。
- 3) 文章を読みとるための基礎的・基本的な力の育成を図る。

目当てを持って意欲的に学習する児童の育成

——特に、説明的文章の読みとり方を身につけさせるための指導過程の工夫——

足利市立大月小学校

1 研究主題設定の理由

国語科指導法に関する研究を推進するにあたり、下記(1)～(3)について検討を加えた。

(1) 児童の実態

次のような児童が目立つ

- ア 説明的文章に対する興味・関心が薄く、学習への意欲がやや欠ける。
- イ ものごとを論理的に考えることが苦手である。
- ウ 説明的文章の読みとり方（学習の仕方）が身についていない。
- エ 文章を読みとるための基礎的・基本的な力がやや欠ける。

(2) 教師の実態

過去の指導法を反省した結果

- ア 教材研究がやや不十分であった。
- イ 1単元、あるいは1単位時間の指導過程に工夫の余地がある。
- ウ 児童に対する「学習の仕方」の指導が不十分だった。
- エ 学習への意欲づけに対し、工夫の余地がある。

(3) これから目指すもの

- ア 自ら学ぶ意欲を喚起する。
- イ 主体的な学習の仕方を習得させる。
- ウ 論理的な思考力・想像力・直観力・判断力・表現力を育成する。
- エ 問題解決的な学習や体験的な学習を重視する。

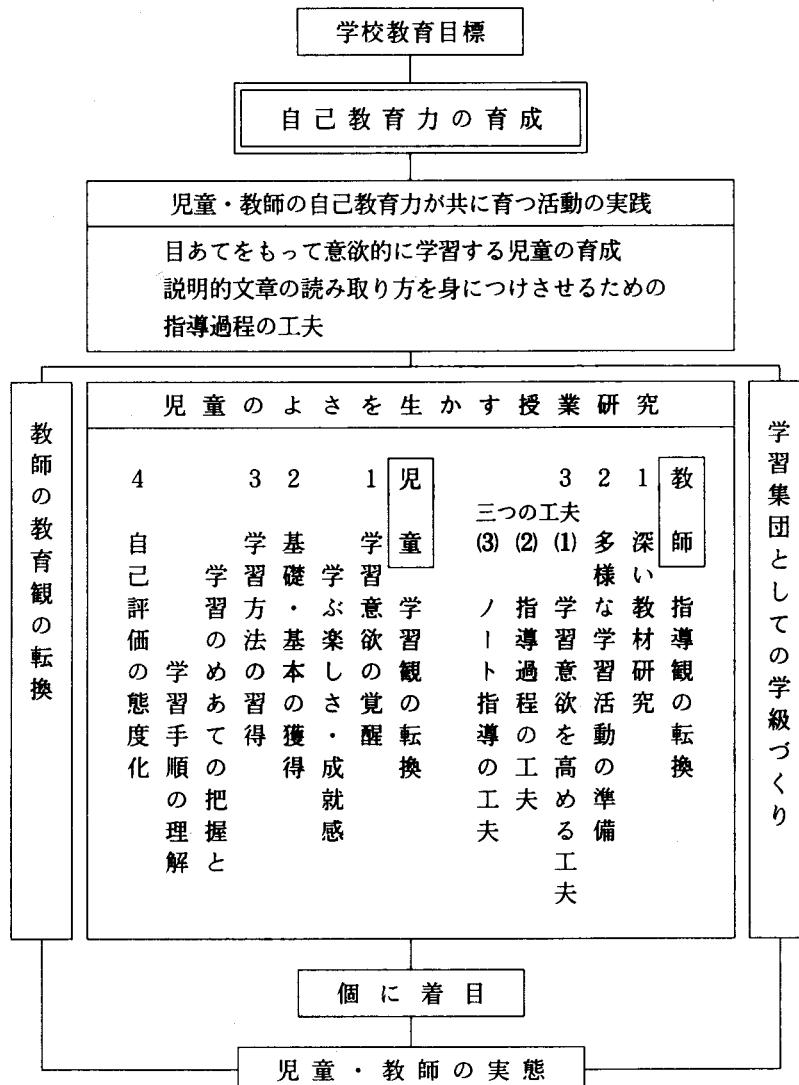
上記上(1)～(3)について検討した結果に基づき、本主題を設定した。

2 研究の目的

本研究は、先に述べた実態等に基づき、次の点を解決しようとするものである。

- (1) 教材研究の方法について、本校としての方法を案出する。
- (2) 説明的文章の読みとり方（学習の仕方）を習得させるための基本的な指導過程を設定する。
- (3) 文章を読みとるための基礎的・基本的な力の育成を図る。

3 研究の構想



4 研究の仮説と仮説検証のための具体策

テーマに迫るために、次のような仮説と仮説検証のための具体策を立てた。

仮説 I

教材研究が深まれば、その単元で指導すべき内容が精選され、合わせて教師の指導力が高まる。

具体策1 文章の研究

- ① 教材文の要旨・主題等を調べる。
- ② 文章構成（段落・組み立て）を調べる。

- ③ 文字・語句・文体等を調べる。
- ④ 文法上の問題を調べる。
- ⑤ 文章の特長を調べる。
- ⑥ 語句の解釈を調べる。
- ⑦ 文章批判をする。
- ⑧ 語彙の深化・拡充を図る。

具体策2 学習内容の研究

- ① 達成される目標（学習指導要領との関連）
- ② 養成される指導内容
- ③ 表現内容により陶冶される人間性

具体策3 指導法の研究

- ① 興味の持たせ方
- ② 考えられる発問・作業・発展
- ③ 予想される児童の反応

仮説II

「学習の仕方」を身につけさせるための指導過程を組織すれば、児童は、意欲的に学習に取り組むことができる。

具体策1 単元としての指導過程の工夫

- ① 技能学習 本教材に入る前のスキル学習として新出の学習内容及び既習の学習内容の訓練学習として1～2時間程度を計画するものとする。
- ② 基礎学習 教科書教材、または、補充教材を用いて、単元のねらいに沿った基礎・基本の学習とし、時数は、学年の学習内容に応じて配当する。
- ③ 応用学習 基礎学習で学んだことを生かし、児童の力に応じて読み進める学習とする。
- ④ まとめ学習 単元のまとめをし、ワークシートやワーキテスト等による評価・診断の時間とする。診断結果によっては、補充学習や発展学習を1時間程度設ける。

具体策2 1単位時間の指導過程の工夫

- ① つかむ 学習課題をつかみ、学習の見通しや予想を立てる。
- ② 調べる 学習の見通しに従って課題解決に取り組む。
予想を立証するために課題解決に取り組む。
- ③ 確かめる 自分で調べた結果をもとに話し合い、発表などにより、比較し確認し合う。
(深める)
- ④ まとめる 学習のまとめをし、次時への意欲づけをする。

仮説 III

文章を読み取るための基礎・基本を身に付けさせるため、日常指導のあり方を工夫する。

具体策1 言語に関する指導

- ① 級別テスト
- ② 漢字学習
- ③ 辞書の活用
- ④ 「言葉遊びコーナー」の設置と活用

具体策2 読解に関する指導

- ① 本読みカードの活用
- ② 図書館の利用（読書量の確保）

具体策3 表現に関する指導

- ① 日記・短作文指導
- ② 1分間スピーチ

5 研究の実際（仮説検証のための具体策の実際）

(1) 教材研究の手立て（「仮説I」検証のための基礎的手立てとして）

教材研究は、教材となる文章そのものを研究分析するとともに、そこで何を学ばせるかということを見つけ出し、その上に立って指導法の研究をするものと考え、次のような具体的な手立てをとった。

- ① 教材文を読む。（要旨・主題・指導内容等との関連を考えながら）
- ② 意味段落に漢数字で番号を打って□で囲む。
- ③ 形式段落に算用数字で番号を打って○で囲む。
- ④ 各文に、算用数字で番号を打つ。
- ⑤ 教材文を一文改行で書き写す。
- ⑥ 辞書・事典にあたる。
- ⑦ 文章の研究をする。
- ⑧ 学習内容の研究をする。
- ⑨ 指導法の研究をする。

(2) 「仮説Ⅰ」の具体策の実際

ア 文章の研究（具体策1）

(ア) 要旨を調べる。（光村図書6年下「長屋王木簡の発見」より）

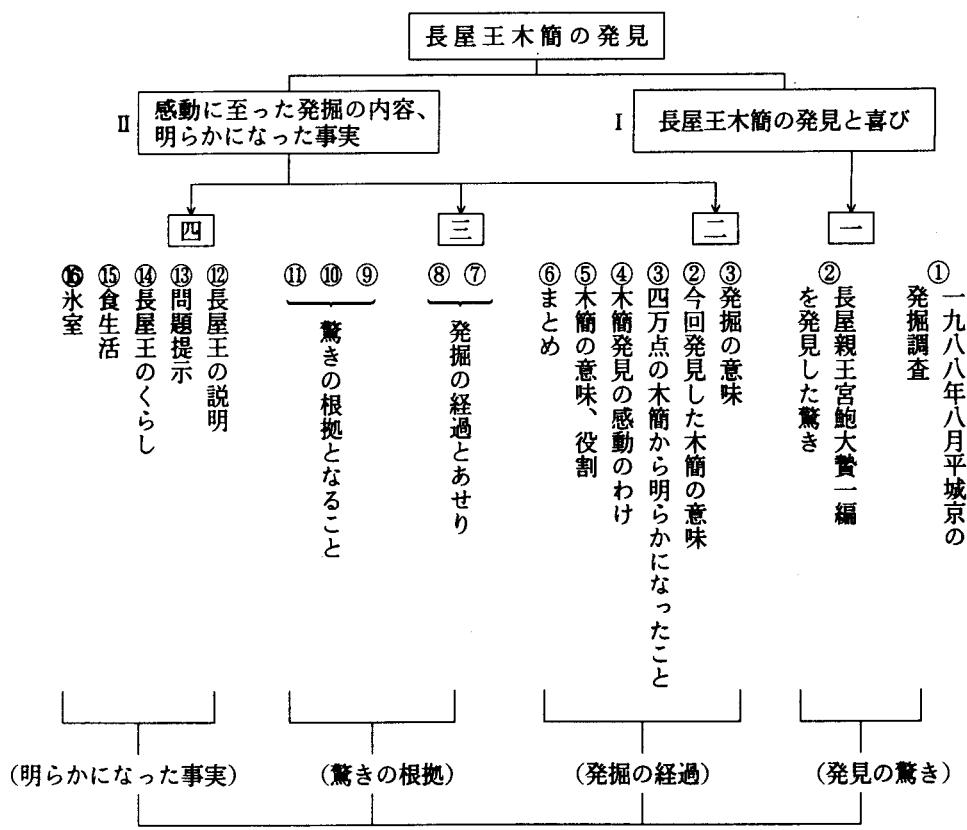
1988年8月、平城京内の屋敷跡の発掘調査をしていた時、私は「長屋親王宮鮑大贊十編」と書かれた木簡を発見した。私をはじめ調査員たちは驚き、興奮した。

発掘によって出て来る物は、たいてい昔の人が捨てたゴミであるが、木簡は、昔の人々の生活の様子を知ることができるので貴重な資料である。

発掘開始から2年。屋敷の主については手がかりがないのであきらめていた時に、4万点もの木簡が発見されたので私たちはとても感動した。

木簡によって長屋王のぜいたくな暮らしぶりが明らかになった発掘は、魅力的な仕事で、私たちは歴史と対話するために土を掘り返している。

(イ) 文章構成（段落・組み立て）を調べる。（同上）



III～五 発掘という仕事の大切さとそれに魅かれる筆者的心 ⑦

③ 文字・語句・文体「教材文について」のプリント参照

(4) 文字・語句・文体等を調べる。

新林文はつこし 「シナギホノハタの姐がわく」 (1)

断碑	文	文の構成・文や段落のつながり	新林研究メモ	
一 (1)	1	シナギハ用ひ、ナリ。也語を遣ひて、シナギトシテ書く。	(おはやく)	語題 提示 読いかけ
一 (2)	2	也語を遣ひて、シナギトシテ書く。	(おはやく)	ナリナリ、ナリは既にのち。
一 (3)	3	也語を遣ひて、シナギトシテ書く。	(おはやく)	シナギトシテ書く。
二 (2)	4	シナギハ用ひ、シナギトシテ書く。	(おはやく)	シナギトシテ書く。
二 (3)	5	シナギハ用ひ、シナギトシテ書く。	(おはやく)	シナギトシテ書く。
二 (3)	6	シナギハ用ひ、シナギトシテ書く。	(おはやく)	シナギトシテ書く。
二 (3)	7	シナギトシテ書く。	(おはやく)	シナギトシテ書く。
二 (3)	8	シナギトシテ書く。	(おはやく)	湯
二 (3)	9	シナギトシテ書く。	(おはやく)	湯
二 (3)	10	シナギトシテ書く。	(おはやく)	湯
二 (3)	11	シナギトシテ書く。	(おはやく)	湯
三 (4)	12	シナギトシテ書く。	(おはやく)	スルローロー
三 (4)	13	シナギトシテ書く。	(おはやく)	スルローロー
三 (4)	14	シナギトシテ書く。	(おはやく)	スルローロー
五 (5)	15	シナギトシテ書く。	(おはやく)	スルローロー
六 (6)	16	シナギトシテ書く。	(おはやく)	スルローロー
七 (7)	17	シナギトシテ書く。	(おはやく)	スルローロー
七 (7)	18	シナギトシテ書く。	(おはやく)	スルローロー
七 (7)	19	シナギトシテ書く。	(おはやく)	スルローロー
七 (7)	20	シナギトシテ書く。	(おはやく)	スルローロー

段落	文	文の構成・文や段落のつながり	教材研究メモ
四 ⑧	21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	<p>青、赤、黄の川はかわります。</p> <p>そして(1)の色がねじれて、回りかってねじ回し順番です。</p> <p>じつして、シナポン玉の色は、(1)のまつたが順番で色がわります。</p> <p>をするのでしつづけます。</p> <p>(1)の色がねじらかわるし、曲がねじられます。</p> <p>青、赤、黄の順番がねじらがねじらります。(1)のまつたがねじらがねじらります。</p> <p>物語れ物語れ。(文末表現)</p> <p>ここにまつたがねじらがねじらるるには、下の方ほど。(1)のまつたがねじらがねじらります。</p> <p>ここでまつたがねじらがねじらります。(文末表現)</p> <p>色になるのは、ゆるゆるのまつたがねじらがねじらります。</p> <p>まつたがねじらがねじらります。(文末表現)</p> <p>(かねさん)</p> <p>それがいな色のシナポン玉を作つて、青部はねじらしてねじらします。</p>	<p>実験結果のまとめ</p> <p>色がわり</p> <p>問題提示 3 No.5 と对比</p> <p>じつは...問題の答え (#6✓)...シナポン玉の膜 まくまくあつた 色まくまくあつた</p> <p>まつたがねじらがねじらります。</p> <p>等しいなど</p> <p>まつたがねじらがねじらります。</p> <p>一色</p> <p>へたたへたたのです。 (肯定の文末表現)</p> <p>呼びかけの文 (行動くりこなし)</p>
五 ⑪			

教材文に使用する記号などの例

- 意味段落 ○接続語(つながる言葉) でかこむ
- 形式段落 ○指示語(こそあじ言葉) () でかこむ
- 文書号 ○その他・ポイント でかこむ
- 主語 ○要点につながる部分・キーワード
- 述語 ○関連性

イ 学習内容の研究（具体策2）

〈光村図書3年下「シャボン玉の色がわり」を例として——前ページ参照〉

(ア) 達成される目標（学習指導要領との関連）

(表現)

ウ 文章に書く必要のある事柄を選び、整理してから書くこと。

エ 事柄ごとの区切りや中心を考えてから文章を書くこと。

オ 事柄と事柄との続き方を考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して文章を書くこと。

カ 書こうとするものをよく観察してから書くこと。

ク 聞いたり読んだりした内容から素材を見付け、その素材を使って表現してみること。

(理解)

イ 話の要点を聞き取り、自分の立場からまとめてみること。

オ 文章の叙述に即して内容を正しく読み取ること。

ク 自分の立場から大事だと思うことを落とさないで文章を読むこと。

(言語事項)

イ (ア) 片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で適切に使うこと。

オ (ア) 文の中における主語と述語との関係及び修飾語と被修飾語との関係を理解すること。

(イ) 文や文章の中における指示語や接続語の役割と使い方に注意すること。

(イ) 表現内容により陶冶される人間性

シャボン玉遊びは、だれでも経験し身近であるが、そのシャボン玉の色変わりの仕方が決まっていることに、児童は、驚きと新しい発見の喜びを持つだろう。シャボン玉が決まった順序で色変わりをすることや、膜の厚さによって色が決まることなど、実際に実験をしながら興味・関心を持ち、自然科学の不思議さ・素晴らしさを感じる心が育つと思われる。

(3) 「仮説Ⅱ」の具体策の実際

ア 単元としての指導過程の工夫（具体策1）略

イ 1単位時間の指導過程の工夫（具体策2）

次のページに、「技能学習」段階の例と「基礎学習」段階の例をそれぞれ示した。

(3) 展開

「技能学習」段階の例（3年）

◎同和教育上の配慮

過程	学習活動	時間(分)	形態	指導上の留意点	評価
○つかむ	1. 本時の学習課題を確認する。 問題文と要点の文を読みとろう 2. 本時の学習の順序を知る。 ①みんなで読み取る②グループで読みとる③1人でちょいせん ○調べる ○確かめる	1 2	一齊 一齊	○「要点」の意味について、文章の大重要なところであることや、「問題文」という言葉について、「シャボン玉の色変わり」で学習したこと具体的に想起させる。 ○学習の進め方の説明で分からないことはないか、質問を受けつける。	○ 本時の学習課題をつかむことができたか。 (観察) ○ 本時の学習の進め方の順序を知ることができたか。 (観察・発表)
○調べる ○確かめる	3. 要点の文の読み取り方を知る。 ①わざいを読み取る ②間だい文を読み取る ③答えるのところを読み取る 4. 教材文Ⅰを読み、要点の文を読み取る。 ・教師の範読→音読練習→一齊読み→指名読み ・話題を読み取る。 ・問題文を読み取り <input type="text"/> で囲む。 ・要点の文を読み取り <input type="text"/> を引く。	3	一齊	○ 要点の文をどのように読み取つたらよいか、読み取りの手順を何回かさせ、範囲を読み取らせる。 ○ 問題文の答えが要点につながることや、要点の文は例や説明をまとめているところであることを押さえる。 ○ 問題文、要点の文をなかなか読み取れない児童には個別に指導する。	○ 要点の文の読み取り方が分かっただか。 (観察) ○ 問題点と要点の文を読み取ることができるか。 (観察・発表)
○深める ○まとめる	5. 教材文Ⅱを読み、要点の文を読み取る練習をする。 ・教師の範読→音読練習→一齊読み→指名読み ・話題を読み取り、問題文を <input type="text"/> で囲む。 ・要点の文を読み取り <input type="text"/> を引く。 ・グループで話し合う。 ・発表して確かめる。 6. 教材文Ⅲを読み、要点の文を読み取る練習をする。 ・教材文を默読し、問題文に <input type="text"/> 、要点の文に <input type="text"/> を引く。	1.4 1.2	個人 グループ 一齊	○ グループでの話し合いの司会者は輪番制でさせる。 ○ 発表の時は、自分の考えと比べながら最後まで聞くようにさせる。 ○ 発表の時はわけも言うようにさせる。	○ グループ活動で意欲的に話し合いに参加しているか。 (発表・観察) ○ 発表したり聞いたりし、学習したことを探かめられたか。 (発表・観察)
○まとめる	7. 本時の学習を感じたこと、分かったことをまとめること。 8. 次時に学習する教材文の所を開き、予告を聞く。	3 2	個人 一齊	○ つまづきのある児童には、ヒントを与えることをみ取れるよう指導する。 ○ 単く終わってしまった児童には、わけも考えさせること。	○ 教材文Ⅲの問題文と要点の文を読み取ることができるか。 (記録・発表) ○ 本時の学習をまとめて次時の予告を予想できただか。 (記録・観察)

(3) 展開

◎ 同和教育上の配慮

過程	学習活動	時間	経緯	指導上の留意点	評価
○つかむ	1. 前時の学習から、シャボン玉の色の変わり方を確認する。 2. 本時の学習範囲を統む。 3. 問題提示文をさがし、本時の学習課題を確認する。 どうして、シャボン玉は、このように決まった順番で色がわりをするのでしょうか。	3 3 6	一齊 一齊 一齊	○はっきりした発音で音読させる。 ○「どうして～でしょうか。」という表現に注目し、③段落には新しい問題がだされれていること気にあわせる。 ○問題文を作業用紙に書き写させる。	○前時の学習を引き起す。(観察・発表) ○本時の学習範囲を統む。(観察) ○本時の学習課題を確認する。(観察・記憶)
○調べる	4. シャボン玉が決まった順番で色がわりをするわけを読み取る。文字つ読みみ、③段落との関係相互通の關係を把握する。 ○シャボン玉がなぜ色がわりするのか、わけを調べてまとめる。 ○シャボン玉の色は、まくのあつさによつて決まる。 ・青、赤、黄、緑など色がわかつたのは、まくがうすくなつていいから。 5. シャボン玉は、どんなとき、どんな色になるか調べる。 ○①段落の三つの文型を理解する。 「～のは、～の～です。」 ○色と順序の関係を調べて、作業用紙にまとめる。	10 個人 10 個人 10 個人	一齊 一齊 一齊 一齊 一齊	○「じつは」に着目させ、以下に④段落の答えが述べられていることに気付かせる。 ○「まく」(キーワード)という言葉が何回もでてくる。ここに注目つかまぜる。「まく」にあつたシヤボン玉がだいぶ大きくなつて割れて、まくがうすぐなる経験や解説を思い起す。 ○要點は、ムをぶくらめだ経験などをして、理解を想起させる。 ○三文とも、「シャボン玉」という言葉が省かれていることを、押さえておく。 ○どんな色(赤)、どんな順(青)の部分にサイドラインを引かせ、間にまとめて見置にはじめて知ったことをやもつとしたりたいことを書くようにさせる。	○前時の学習を引き起す。(観察・発表) ○本時の学習範囲を統む。(観察) ○色と順序の関係を調べて、作業用紙にまとめる。(観察・記憶)
○確かめる	6. シャボン玉の色がわりのわけとその様子を、発表する。 ○次の順序を切り替える。 ・色もよう ・しまじらう ・一色 ○まとめると、本時の学習部分を読み、まとめる。	8 8 3	一齊 一齊 一齊	○順序の順は、自分の考えと比べながら、最後まで聞くようにさせる。 ○自分の実験を想起させながら、①段落まで通して音読させること。	○前時の学習範囲を統む。(観察) ○次順序を切り替える。(観察) ○新しい課題を知らせて、応用学習への意欲付けをする。
	8. 次の順序をいくうちに、かわっていくもののはほかにないだろか。	2		○本時の学習範囲を統む。(観察) ○次の課題について音読する。(観察) ○次の課題について音読する。(観察)	

(3) 「仮説Ⅲ」の具体策の実際

日常指導のあり方を中心とする具体策1～3については、すべて割愛する。

6 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

ア 児童の姿から

- (ア) 説明的文章に対する抵抗がやや少なくなり、文章の内容に対し、興味・関心を示す児童が見られるようになってきた。
- (イ) 説明的文章の読み取りの手順（学習の手順）が身につきつつある。
- (ウ) 「本読みカード」を用いて、積極的に音読練習をしてくる児童が増えつつある。
- (エ) 全校あげての「級別テスト」の徹底により、漢字を読む力が身につきつつある。
- (オ) 学習問題づくりや学習課題を手がかりにした学習方法が身につきつつある。

イ 教師の姿から

- (ア) 本校独自の教材研究の方法が定着し、教材研究が深まってきた。
- (イ) 技能学習を導入した際の指導過程や、技能学習を基礎学習にどう生かすか等、様々な工夫が見られるようになってきた。
- (ウ) 本校として設定した「1単元・1単位時間」の指導過程が定着してきた。
- (エ) 作業用紙等を活用することによって「学習の仕方」を指導しようとする授業展開になってきた。
- (オ) 説明的文章に対する児童の興味・関心を喚起するため、特に、導入部分での工夫が見られるようになってきた。

(2) 今後の課題

ア 説明的文章の読み取り方はやや身につきつつあるが、論理的思考力が高まる段階までには至っていない。

イ 教材研究のうち、「興味の持たせ方」「考えられる発問・作業・発展」「予想される児童の反応」については、研究の深まりが不十分である。

ウ 研究主題設定の理由の中で示した「これから目指すもの」については、方向目標として受け止め、今後の課題として残したい。

評

今、国語科に求められているものは、国語科の目標及び内容等が児童一人一人の主体的な学習によってその児童の内側に組み込まれ、その後の国語学習や学校生活、更に家庭生活や社会生活において、生き生きと活用したりできる力を身に付けることです。

そのためには、どのような国語科の授業を構想・構築し展開したら児童一人一人が自分の興味や関心をもって取り組みながら自分のよさ、つまり児童一人一人の感じ方や考え方、表現や行動等の内容や傾向のよさを発揮できるような国語科の授業を具体化できるかであります。

大月小学校の研究は、まさに、この課題を受けての研究と受け止めることができます。

本研究の特色としては、

1 説明的文章における教材研究（特に教材分析）

説明的文章の本文研究においては、ア 説明文教材の形式的構成、イ 説明文の段落の働き、ウ 段落の中でのキーワードの働き、エ 説明の方法等を教師自らが学びとることが大切であり、本校においては、このことを教材分析を通して実践している。

2 単元及び1単位時間の指導過程の工夫

児童の側に立った授業を展開するとき、児童の実態を的確にとらえ、その実態を生かしながら単元及び1単位時間の学習の流れに目を向け、児童が学習に意欲的に取り組むことができるようになることが大切である。また、児童の学びとる過程や身につける能力を明らかにし、指導過程を工夫していくことは、基礎的・基本的な内容を身に付けていくうえで、重要なことである。この点に着目して、研究に取り組まれたことは、本研究の特色の中でも特に極立っている点と言うことができる。

3 基礎・基本を身に付けるための日常指導の工夫

辞書の活用、図書館の利用、日記・短作文の指導などの日常指導は、生涯学習の基礎を培う面や情報化社会が今後さらに進展することを考えると、ますます重視されなければならない点である。その意味から、社会の変化を見通した先見性のある取り組みである。

このような本研究の内容は、今後の国語科の授業の展開を考えていくうえで、大いに参考になるものと思われます。先生方のご努力に感謝を申し上げ、今後とも研究を継続され、実践を積み重ねて、更に研究が深められますことを期待して、評といたします。